

青梅市文化財ニュース

第321号

平成26年7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

青梅宿にあった愛宕神社

青梅坂の途中、永山遊歩道に向かう階段を登って行くと二手に分かれる道に出る。その道を左手に折れ、ほんの少し下ると 20 坪ばかりの空き地に出る。そこはかつて愛宕神社があった場所である。

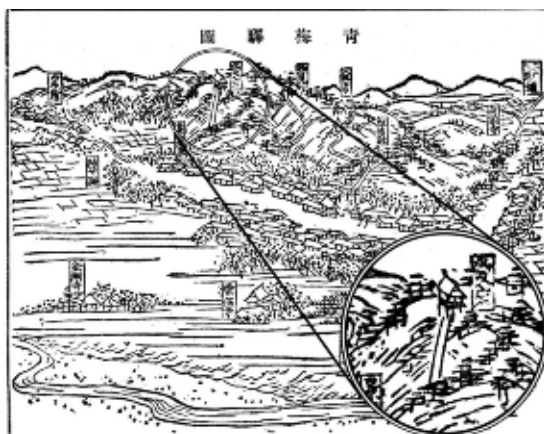
文化文政期（1804～1829）の頃に編纂された『新編武蔵風土記稿』には「年貢地、前社（七星権現・秋葉権現両社合殿）より西の山上にあり、石段凡そ二百五十級をして社前に至る。九尺四方の社なり、金剛寺持」とある。

又、文政 6（1823）年に書かれた『武蔵名勝図会』には「右（秋葉社）の嶺の続きの山上にあり。高さ二町許、麓より石段の直道にして二百五十級 幅四尺 頂上に木鳥居 本社南向き 三尺四方 上屋二間・三間 神体は將軍地蔵の木立像を安置す。金剛寺持山なり。」と記載されている。以上の事から森下町の裏山には約 200 メートルにおよぶ真直ぐな石段が二百五十段もあり、それを登ると木の鳥居があり、二間・三間の覆屋の神社がありその中には將軍地蔵をご本体とした約 90 センチ四方の社があったことが分かる。天保 5（1834）年に書かれた御嶽山への参詣案内書『御嶽菅笠』の絵図に描かれている愛宕神社にも社に続く真直ぐな階段が描かれている。

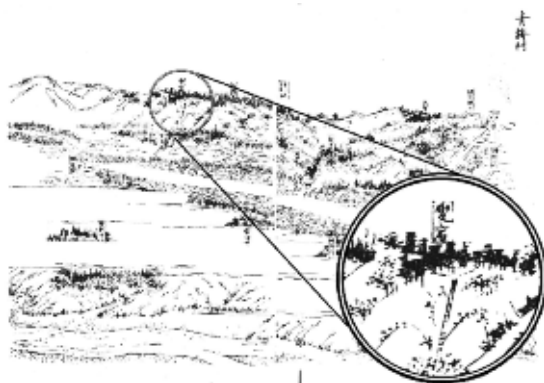
しかし、今そこには

下部：三段の石段の上に約 280 センチ四方を石で囲み
その中は石敷。

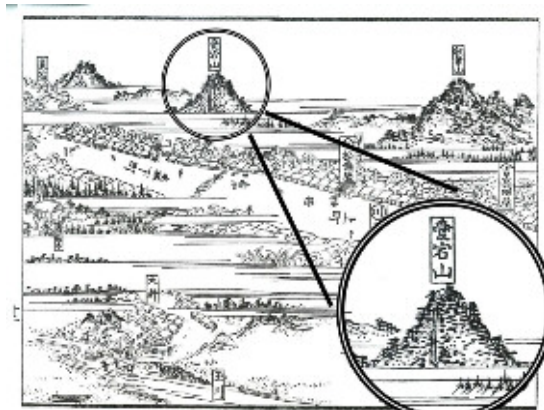
中部：高さ約 80 センチ・幅 170 センチ・奥行 150 セン



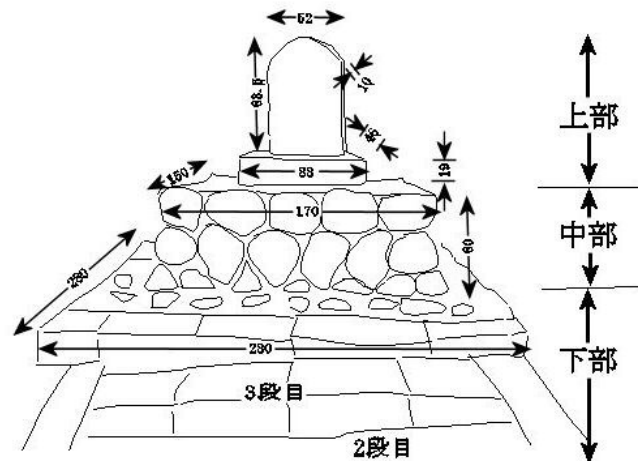
『新編武蔵風土記稿』より



『武蔵名勝図会』より



『御嶽菅笠』より



愛宕神社跡の碑と寸法

チの石垣。

上部：高さ約 19 センチ・幅 88 センチ・奥行 46 センチの台座の上に高さ約 83.5 センチ・幅 52 センチ・厚さ 10 センチの上方が楕円形。

この碑は自然石で、「愛宕神社跡」とあり、裏面には「当社は熊野神社へ合祀のため記念として之を建つ 昭和二十七年七月 森下町」と印刻された碑と手前に手水鉢と思われる石があるだけである。

明治の初めに編纂された『皇国地誌・青梅町誌』に「雑社 熊野大神ト同覆舎左ノ方ニアリ 火産霊神ヲ祭り同殿ニ宇迦之御魂命ヲ祭ル 鎮座 起源未詳ナラズ 元愛宕大権現と 称シ字森下背後ノ山上に鎮座 維新ノ際、該地ニ遷座シ 社号改替ス」とあり、又『西多摩神社誌』の熊野神社の項によると「大正 14 年 9 月 覆舎及び拝殿を改築 同時に愛宕・琴平社を合祀した」と書かれている。以前町内の古老が『子供の頃、父親から愛宕神社の石を熊野神社に運んだと聞いたことがある』と話されていたことから、明治の初期に森下町 556 番地 森下陣屋跡にある熊野神社に合祀され、大正 14 年に二百五十段の石段は熊野神社の参道に敷かれたのではないかとと思われるが、詳しい資料が無い為ので、愛宕神社に関する情報があればお知らせください。



左：愛宕神社 中央：熊野神社

(文責：儘田 小夜子)